

# 呼吸器内科年報 令和5年（2023年）度

## 1. 呼吸器センターについて

平成19年6月に、呼吸器内科と呼吸器外科が統合して呼吸器センターが設立され、呼吸器疾患に対するシームレスな診療を目指している。なお、平成27年4月1日から診療報酬上は呼吸器内科と外科に分けてそれぞれの診療実績を把握しやすくした。

### 【呼吸器センターの構成】

呼吸器センター長： 福井部長（内科系部門統括）

副センター長： 黄部長（外科系部門統括）

### 【センター全体での業務】

- 合同カンファレンス（月曜日 17時30分から）

呼吸器センター（呼吸器内科、呼吸器外科）、放射線科（治療部門）、腫瘍内科が合同で主に肺癌患者の集学的治療について検討を行っている。

- 外来

外来Aブロック8診、9診、10診、19診、20診において、呼吸器センター内科と外科が並列して外来診療を行うことで、密接な診療協力をはかる。

基本的にAブロック9診は内科・外科部長が紹介患者や予約患者を中心に診察。

初診患者は各外来で分担して診察を行っている。

### 呼吸器センター1診（Aブロック9診）

月曜日から金曜日までは部長が担当。土曜日は内科系初診を中心に交代で担当した。

#### 《呼吸器センター1診担当医師》

月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
黄（外科）	福井	黄（外科）	福井	福井

### 呼吸器センター2診（Aブロック10診）

月曜・火曜・木曜の午前中は初診外来、土曜日は外科系初診外来（交代）である。

月曜・火曜・木曜の午

後と水曜日は、呼吸器センタースタッフが15分単位で自由に予約を入れることができる。外来化学療法中の患者や入院中検査の結果説明などで時間を要する診療に利用されている。

《呼吸器センター2診担当医師》

月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
塚本/自由梓	植木/自由梓	尾田(外科)	森本/自由梓	長(外科)
井上(午後)	北島火曜(午後)			

**呼吸器センター3診 (Aブロック 20診)**

主に内科系スタッフが予約患者を中心に、初診患者も一部担当した。水曜日は非常勤の林医師が担当している。

《呼吸器センター3診担当医師》

月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
丸毛	船内	林	野原/丸毛	井上

**呼吸器センター4診 (Aブロック 19診)**

午前中は、初診患者と予約患者を中心に、午後は予約患者を中心に診療している。

《呼吸器センター4診担当医師》

月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
北島	白石	交代/コト後遺症	伊元	神野

**呼吸器センター金曜 (Aブロック 8診) 金曜のみ**

午前中のみ、初診患者と予約患者を中心に診療した。

《呼吸器センター金曜初診担当医師》

月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
熊谷(外科)				森本

**2. 呼吸器内科の基本方針**

当科が目指しているのは、常に最新の医療を適切に患者さんに届けること、患者さんに近い医療を心がけること、そして常に科学者としての視点を持って診療にあたることです。

**3. 呼吸器内科のスタッフ紹介**

4月に井上が副部長から部長に昇格し、野原が4月からレジデントから医員に昇格した。副部長の伊元が4月に、副部長の濱川が6月に退職した。

レジデントの山中が外部研修で尼崎総合医療センターに異動した一方で、レジデントの嶋村が尼崎

総合医療センターから外部研修のため当科に異動してきた。また、神戸中央市民病院からレジデントの塚本が、大津赤十字病院から船内が内科専攻医外部研修を終えて復帰した。また、大倉が臨床研修医からレジデントに昇格した。

その結果、令和5年度は主任部長1名、部長2名、副部長・医員4名、後期レジデント5名の構成で業務を行った。科の性格上、緊急入院が非常に多く、スタッフの過重労働が大きな問題であったが、呼吸器内科を志望してくれる後期レジデントが毎年1-2名ずつ加わってくれており、大きな戦力となっている。

医 師		資格など
福井 基成 ふくい もとなり	副院長 呼吸器センター長 呼吸器内科主任部長	京都大学医学博士、京都大学医学部臨床教授 日本内科学会指導医 日本呼吸器学会専門医・指導医・代議員 呼吸ケア・リハビリテーション学会代議員 日本内科学会総合内科専門医
丸毛 聡 まるも さとし	部長	日本結核病学会結核非結核性抗酸菌症認定医 日本内科学会認定医、日本化学療法学会認定医 Infection Control Doctor、日本結核病学会指導医、 日本感染症学会専門医、日本アレルギー学会専門医、 日本内科学会総合内科専門医、日本呼吸器学会専門 医、産業医
井上 大生 いのうえ だいき	部長 病棟主任	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本呼吸器学会専門医、日本内科学会指導医、 日本呼吸器学会指導医、Infection Control Doctor
北島 尚昌 きたじま たかまさ	副部長	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本呼吸器学会専門医、日本内科学会指導医、 日本がん治療認定医機構がん治療認定医、 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医、 日本アレルギー学会専門医、日本呼吸器学会指導医
森本 千絵 もりもと ちえ	副部長	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医？
神野 志織 じんの しおり	医員	日本内科学会認定内科医
野原 瑛里 のはら えり	医員	日本内科学会認定内科医
塚本 信哉 つかもと のぶや	後期レジデント	日本内科学会認定内科医
船内 敦司 ふなうち あつし	後期レジデント	日本内科学会認定内科医
植木 康光 うえき やすみつ	後期レジデント	
嶋村 優志 しまむら ゆうし	後期レジデント	

大倉 千明 おおくら ちあき	後期レジデント	

#### 4. 呼吸器内科 外来実績

令和 5 年度外来患者数：24,856 名（2,010 名／月）（入院中外来を含む）

- 初診患者 2,113 名
- 地域医療室経由事前予約紹介患者数 707 名。
- 外来化学療法 のべ 289 件実施（腫瘍内科と協同して実施）

外来を受診される患者としては、気管支喘息、COPD、肺癌、睡眠時無呼吸症候群、慢性呼吸不全、気管支拡張症、非結核性抗酸菌症、間質性肺炎などが多い。最近、特に間質性肺炎や非結核性抗酸菌症の患者が増加している。

なお、2006 年に当科と当院薬剤部、北区北支部薬剤師会、そして地域の保険薬局が協同して立ち上げた「吸入指導ネットワーク」により、保険薬局において統一された吸入指導を受けることが可能となり、喘息や COPD 患者の吸入手技や吸入治療アドヒアランスの向上に成果を上げている。

#### 5. 呼吸器内科 入院実績

令和 4 年度入院患者数：1,382 名（月平均 115 名）

- 平均年齢 70.8 歳
- 検査目的 299 名、治療目的 1,083 名
- 平均在院日数 15.3 日（検査目的 3.81 日、治療目的 18.53 日）
- 緊急入院患者 673 名（全体の 48.7%）
- 10 東・9 西以外の病棟に入院する患者 612 名（44.2%）

肺癌、肺炎、肺膿瘍・膿胸、睡眠時無呼吸症候群、間質性肺炎などのびまん性肺疾患、喘息・COPD、呼吸不全など多彩な疾患の患者が入院している。入院患者数としては、令和 4 年度に比べて増加傾向であるが、新型コロナウイルス流行前までは回復していない。

呼吸器内科の病床数としては、10 階東病棟の 40 床と 9 階西など他病棟を加えた 52 床が定員であったが、実際には定員を大幅に超えることが多い。

主治医は基本的にスタッフか卒後 5 年目のレジデントが務め、後期レジデントや臨床研修医が担当医として研修を行った。

入院患者の疾患別内訳は以下の通りである。

疾患	H28 患者数 (名)	H29 患者数 (名)	H30 患者数 (名)	R1 患者数 (名)	R2 患者数 (名)	R3 患者数 (名)	R4 患者数 (名)	R5 患者数 (名)
肺癌など悪性腫瘍（疑いを含む）	490	560	572	586	443	487	399	454
その他の腫瘍	1	0	43	37	34	27	27	31
気道感染	16	17	12	13	1	1	3	24
肺炎	248	367	277	310	410	439	174	270
敗血症、ショック	6	4	15	17	8	3	3	2
肺膿瘍・敗血症性肺塞栓症など	21	22	13	14	21	12	8	9
真菌・寄生虫	10	6	18	25	6	8	10	10
結核（胸膜炎を含む）	13	17	11	12	12	16	10	18
非結核性抗酸菌症	32	35	31	28	23	30	17	35
気管支拡張症	16	19	11	14	13	6	7	10
喘息・アレルギー	60	65	70	58	35	33	33	55
COPD	22	20	25	37	19	22	35	53
呼吸不全	98	116	89	74	62	37	18	19
心不全・右心不全	12	6	6	5	11	4	4	1
肺循環疾患	0	2	1	5	4	4	1	2
SAS	138	166	131	148	82	75	74	91
気胸・縦隔気腫	21	28	16	22	9	19	22	32
胸膜病変	26	29	22	24	25	15	30	32
間質性肺疾患	129	126	88	101	107	109	105	92
過敏性肺炎		-	32	35	6	12	22	23
サルコイドーシス・IgG4 関連疾患	10	14	9	7	15	8	7	8
肺血管炎	1	5	5	10	2	4	1	0
血痰・喀血・肺胞出血	13	9	19	12	19	10	10	17
気道狭窄・気道異物	5	0	2	3	4	2	1	5
胸部異常陰影・無気肺	6	6	19	3	5	2	5	3
その他	30	26	36	36	51	44	34	41
合計	1443	1665	1564	1636	1427	1429	1060	1340

## 6. 呼吸器内科 検査実績

- 気管支鏡検査（内視鏡室で実施分）：712 件

BAL 94 件、TBB/TBLB 171 件、EBUS-TBNA 25 件、クライオバイオプシー 5 件  
EWS 2 件、気胸合併は 2 件であった。

- CT ガイド下生検：7 件

- 呼吸機能検査

精密呼吸機能 265 件、スパイロ 1678 件、気道可逆性試験 534 件、呼吸抵抗 0 件

- 呼気 NO 検査：2,685 件

- 睡眠呼吸検査

ポリソムノグラフィー(PSG) 95 件、簡易 PSG (パルスリーフ) 14 件

SpO<sub>2</sub> モニタリング 148 件

\*慢性呼吸不全患者に対しては、経皮 CO<sub>2</sub> モニタリングを併用した PSG を行い、睡眠時低換気の正確な把握を行い、成果を上げている。

## 7. 呼吸器内科診療の動向

### 肺癌

治療入院のうち、最も多いのが肺癌患者である。毎週、呼吸器外科、腫瘍内科および放射線科とともに合同カンファレンスを行い、肺癌患者の集学的治療を議論している。当院の特徴として、高齢者や併存症が多い患者が多く、ガイドライン通りの治療が難しいこともしばしばである。

進行非小細胞肺癌の診断・治療は近年大きく変わりつつある。特に、非扁平上皮肺癌においては、まず Amoy パネルなどを用いて遺伝子変異の有無を確認し、これらが陽性の患者に対しては、first line から様々なチロシンキナーゼ阻害薬が積極的に用いられ、良好な診療成績を上げている。また、免疫チェックポイント阻害薬（ICI）の登場により、治療選択は広がり、長期の治療効果が期待できるようになった。一方で ICI の投与に伴う免疫関連有害事象（irAEs）の発生が問題になっている。

### 呼吸器感染症

COVID-19 の診断のため導入されたマルチプレックス PCR 診断装置である FilmArray<sup>®</sup>を活用することで、COVID-19 やインフルエンザウイルスを含む 21 種類のウイルスや細菌の感染を短時間で診断することが可能になった。特に RS ウイルスやヒトメタニューモウイルス、ヒトライノウイルス、マイコプラズマの急性呼吸器感染症が短時間で容易に診断することが可能となった。

一方で、高齢者の肺炎患者は、栄養障害や嚥下障害、ADL 低下などを合併していることが多い。入院初期から栄養サポートやリハビリテーションを積極的に導入している。また、退院後の介護や生活サポートを要する患者も多く、入院の早い段階から、地域サービスセンターと連携をとり、退院後の生活がスムーズに行くように心がけている。水曜日昼に開催される病棟カンファレンスには、医師・看護師に加えて、地域医療担当看護師、薬剤師、理学・作業療法士、栄養士など多職種が集まり、様々な問題点について合

同で協議している。

その他、非結核性抗酸菌症も中年以降の女性を中心に増えており、標準治療で改善が乏しい患者に対しては、アミカシン吸入療法（アリケイス）の導入も始まっている。一方で、やせや栄養障害に注目して臨床研究を行い、栄養介入なども開始している。

### 間質性肺疾患

間質性肺疾患の診断・治療のための入院が多くなっている。一般に、特発性肺線維症（IPF/UIP）を含む特発性間質性肺炎が半数以上を占めるとされているが、実際には慢性過敏性肺炎との鑑別は非常に難しい。初診時から環境についての詳細な問診や血液検査を行い、慢性過敏性肺炎を疑う患者では、自宅などの環境調査を行い、羽毛製品の除去や環境整備を積極的に行っている。これらにより改善を示す患者も多い。これらによっても改善が乏しい場合には、ステロイドや免疫抑制剤による治療を試みている。線維化が急速に進む患者に対しては、抗線維化薬としてピルフェニドンやニンテダニブを用いることもある。

### 気管支喘息・慢性咳嗽

吸入ステロイド薬など吸入療法が喘息治療の中心であることは変わらず、前述の通り、吸入指導ネットワークを通じて地域の薬局・薬剤師会と協同で患者が正しい吸入手技を行うことができるように支援している。一方で、難治性喘息に対して、様々な新しい生物製剤が登場し、症状の寛解などを得られる例も出てきている。

### 睡眠呼吸障害

閉塞性睡眠時無呼吸症候群に対して、鼻 CPAP 治療を導入した件数は着実に増加している（令和 5 年度、在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料算定患者は 287 名）。これらの患者は月 1 回の定期通院が必要であり、外来混雑の要因となっている。地域医療サービスセンターの協力の下、OSAS 地域連携クリニカルパスにより、開業医の先生との連携を図っている。

なお、中等症までの閉塞性睡眠時無呼吸症候群で、特に下顎が小さく後退している患者については、歯科で口腔内装置（OA）を作成して治療に用いており、良好な効果を上げている（令和 5 年度は 16 名紹介、うち当院歯科への依頼は 10 名）。

### 呼吸不全・その他

慢性呼吸不全の患者については、薬物療法に加えて積極的に呼吸リハビリテーションを導入している。また、在宅酸素療法（令和 5 年度年度指導管理料算定患者は 109 名）、在宅人工呼吸療法（NPPV）（令和 5 年度年度指導料算定患者 33 名）の導入時には、長時間記録可能な SpO<sub>2</sub> モニタリングや経皮 CO<sub>2</sub> モニタリング、ポリソムノグラフィーなどを用いて正確な病態把握を行い、特に睡眠時低換気の有無を確認している。睡眠時低換気を有する場合には、積極的に夜間 NPPV 導入を図り、その後の病状改善や安定が得られている。

在宅療養に移行する場合は、地域医療サービスセンターの看護師・MSW を介して、かかりつけ医や訪問看護、在宅介護と密な連携を図るとともに、退院後数カ月、当院から理学療法士が自宅訪問し、呼吸リハビリテーションの継続と環境変化に対する指導などを行い、成果を上げている。

## 8. 呼吸器内科 2023 年度業績

### 【著作（共著）】

丸毛聡：第 6 章ジェネラリストに紐解くガイドラインの読み方（1）喘息. 寺田哲也 編集：jmedmook89 ひとりでできるアレルギー診療. p149-154. 日本医事新報, 東京, 2023

丸毛聡：喘息. II 疾患編 A. 閉塞性肺疾患と気道疾患 2. 原悠/金子猛 編集：研修医が知りたい対応をチャートで整理！呼吸器診療エッセンシャル. P35-43. 南江堂, 東京, 2024

### 【原著論文】 査読あり

Miki K, Tsujino K, Fukui M, Miki M, Kitajima T, Sumitani H, Hashimoto K, Yokoyama M, Hashimoto H, Nii T, Matsuki T, Kida H; for EPT study group: Laryngeal widening and adequate ventilation by expiratory pressure load training improve aerobic capacity in COPD: a randomised controlled trial. *Thorax* 2023 Dec 15;79(1):23-34. doi: 10.1136/thorax-2022-219755.

Takayama Y, Yumen Y, Kitajima T, Honda N, Sakane N, Fukui M, Nagai N. Association of body size distortion with low body mass index in female patients with nontuberculous mycobacterial lung disease. *PLoS One* 2023 Aug 22;18(8):e0290277. doi: 10.1371/journal.pone.0290277. eCollection 2023.

Mori R, Handa T, Ohsumi A, Ikezoe K, Tanizawa K, Uozumi R, Tanabe N, Oguma T, Sakamoto R, Hamaji M, Nakajima D, Yutaka Y, Tanaka S, Yamada Y, Oshima Y, Sato S, Fukui M, Date H, Hirai T. Evaluation of Bone Mineral Density in Lung Transplant Recipients by Chest Computed Tomography. *Respiration* 2024;103(1):1-9. doi: 10.1159/000535269. Epub 2023 Dec 5.

### 【症例報告】 すべて査読あり

Shinya Tsukamoto, Kazuma Nagata, Keisuke Tomii: Management of alveolar-pleural fistula secondary to invasive pulmonary aspergillosis with bronchial occlusion using a combination of Endobronchial Watanabe Spigot and N-butyl-2-cyanoacrylate: A case report. *Respirology Case Reports*. 2023;11(6):e01163.

### 【総説など】

丸毛聡：特集 高齢者呼吸器疾患-診断・治療の最新動向-吸入薬を活かすための地域での吸入指導の枠組み. 日本臨牀 81 巻 5 号 (通巻第 1234 号)

北島尚昌：こんなときはどちらを選ぶ？高二酸化炭素血症を伴う人工呼吸管理中の COPD のケース。みんなの呼吸器 Respica. 2023. Vol.21 no.6 20-25.

北島尚昌：終末期のハイフローセラピーの実際。みんなの呼吸器 Respica. 2023. Vol.21 no.6 129-25.

丸毛聡：特集 エキスパートが解説！内科における最新論文：気管支喘息に関する最新のトピック。medicina 2024 年 1 月号

丸毛聡：特集 気管支拡張症 温故知新 注目され始めた一大カテゴリー 気管支拡張症に対する抗菌薬吸入療法の可能性。呼吸器ジャーナル 2024. 72(2). P243-249.

### 【口頭発表】

北島尚昌：呼吸管理のパラダイムシフト～慢性呼吸不全の呼吸管理～。若手シンポジウム「若手が切り開く呼吸管理の未来～現場を知る若手が必要とするエビデンスとは何か?」。第 63 回日本呼吸器学会学術講演会. 2023. 4. 30. 東京

丸毛聡：新型コロナウイルス感染症後遺症とその診療の実際、第 124 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 総会・学術講演会パネルディスカッション 1、2023. 5. 18. 福岡

坂野勇太、濱川瑤子、丸毛聡、福井基成、重松三知夫、藤田茂樹：肺腫瘍血栓性微小血管症により肺高血圧症を呈した肺癌患者の 2 例。第 8 回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会 2023. 6. 3. 神戸

植木康光：重症喘息患者に対する経験（バイオ製剤の導入）。重症喘息治療の Next Generation. 2023. 5. 24. 大阪

福井基成：Opening Remark. パネルディスカッション「COPD に対する鍼灸治療の効果と安全性ー産学連携！気胸撲滅に向けての取り組みー」。第 72 回全日本鍼灸学会学術大会 2023. 6. 11. 神戸

大倉千明、丸毛聡：多発結節影に対する起炎菌治療が背景疾患である気管支拡張症に有効であった一例。気道疾患研究会 2023. 6. 16. Web

船内敦司：Osimertinib 内服後に心嚢水が出現した 1 例。第 73 回大阪北肺疾患勉強会 2023. 6. 19. 大阪

大倉千明、丸毛聡、福井基成：Mupltiplex realtime PCR によって診断された RS ウイルス感染症の検討。NPO 西日本呼吸器内科医療推進機構 夏期学術集。会 2023. 7. 15. 長浜

野原瑛里 井上大生 嶋村優志 植木康光 塚本信哉 大倉千明 船内敦司 神野志織 森本千絵  
濱川瑤子 北島尚昌 丸毛聡 福井基成 胸腔鏡下肺切除術後に手術側上葉優位の進行性線維化病  
変を認めた2例 第101回日本呼吸器学会近畿地方会. 2023. 7. 22. 神戸

大倉千明、田中美緒、嶋村優志、植木康光、塚本信哉、船内敦司、野原瑛里、神野志織、森本千  
絵、濱川瑤子、北島尚昌、井上大生、丸毛聡、福井基成：トキシカラ症による多発肺結節影を呈し  
た1例. 第101回日本呼吸器学会近畿地方会. 2023. 7. 22. 神戸

船内敦司、林優介、大倉千明、嶋村優志、植木康光、塚本信哉、野原瑛里、神野志織、森本千絵、  
濱川瑤子、北島尚昌、井上大生、丸毛聡、福井基成：全身性リンパ節腫大を伴う間質性肺疾患にト  
シリズムマブが奏功した一例. 第101回日本呼吸器学会近畿地方会. 2023. 7. 22. 神戸

植木康光、濱川瑤子、大倉千明、嶋村優志、船内敦司、塚本信哉、野原瑛里、神野志織、森本千  
絵、北島尚昌、井上大生、丸毛聡、福井基成：低酸素換気応答低下によると思われる安静時低酸素  
血症に対してアセタゾラミドが奏功した1例. 第101回日本呼吸器学会近畿地方会. 2023. 07. 22. 神  
戸

塚本信哉、藤本佑樹、三好琴子、原田威徳、中島直樹、中治仁志：急速に進行するランダムパター  
ンのびまん性粒状影を呈した腺癌多発肺転移の1例. 第101回日本呼吸器学会近畿地方会.  
2023. 7. 21. 神戸

丸毛聡：Remissionというコンセプトが喘息の実地診療に果たす役割と課題. 第72回日本アレルギー  
学会学術大会 シンポジウム17「アレルギー・炎症性疾患の remission を考える」. 2023. 10. 22.  
東京

丸毛聡：症例から考える COVID-19 後遺症の病態と診療の実際. 第93回日本感染症学会西日本地方  
会学術集会・第71回日本化学療法学会西日本支部総会 シンポジウム14「COVID-19」. 2023. 11. 11.  
富山

船内敦司、大倉千明、嶋村優志、植木康光、塚本信哉、神野志織、森本千絵、北島尚昌、井上大生、  
丸毛聡、福井基成：同種造血幹細胞移植後の肺炎. 第74回大阪北肺疾患勉強会 2023. 11. 13. 大阪

Shinya Tsukamoto, Yoko Hamakawa, Daiki Inoue, Satoshi Marumo, Motonari Fukui:  
Characteristics of Cardiac Tamponade due to Malignant Pericardial Effusion in Patients  
with Lung Cancer. The 27th Congress of the Asian Pacific Society of  
Respirology. 2023. 11. 16-19. Singapore

福井基成、北島尚昌：慢性呼吸不全患者における睡眠時低換気の臨床的意義と治療. ワークショッ

プ1「呼吸リハビリテーション患者にひそむ睡眠呼吸障害」 第33回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会. 2023.12.1. 仙台

林優介、田辺直也、前谷知毅、白石祐介、寺田悟、西健太、砂留広伸、佐藤晋、長崎忠雄、小熊毅、松本久子、福井基成、平井豊博：気管支喘息患者における胸部CTを用いた骨格筋、脂肪の定量評価と臨床指標との関連. 第33回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会. 2023.12.1. 仙台

植木康光：非小細胞肺癌の遺伝子検査と Driver mt に対する治療戦略について. 第6回 Next Generation NSCLC Conference. 2023.12.1. 大阪

丸毛聡：症例から考える COVID-19 後遺症の病態と診療の実際. 第27回日本心療内科学会総会・学術大会特別シンポジウム1「コロナ後遺症（新型コロナウイルス罹患後症状）における心療内科医の役割」. 2023.12.9. 東京

大倉千明、森本千絵、嶋村優志、植木康光、塚本信哉、船内敦司、神野志織、北島尚昌、井上大生、丸毛聡、福井基成：ALK 融合遺伝子変異陽性肺腺癌に対してチロシンキナーゼ阻害薬 (ALK-TKI) 使用中に急性心膜炎を生じた1例. 第102回日本呼吸器学会近畿地方会・第7回日本ケア・リハビリテーション学会近畿支部学術集会. 2024.1.20. 大阪

塚本信哉、大倉千明、嶋村優志、植木康光、船内敦司、神野志織、森本千絵、北島尚昌、井上大生、丸毛聡、福井基成：Pseudo-Meigs 症候群/Meigs 症候群を合併した卵巣腫瘍の2例. 第102回日本呼吸器学会近畿地方会・第7回日本ケア・リハビリテーション学会近畿支部学術集会. 2024.1.20. 大阪

嶋村優志、大倉千明、塚本信哉、植木康光、船内敦司、神野志織、森本千絵、北島尚昌、井上大生、丸毛聡、福井基成：抗結核薬の初期増悪や副作用で治療に難渋した肺結核の一例. 第102回日本呼吸器学会近畿地方会/第7回日本ケア・リハビリテーション学会近畿支部学術集会. 2024.01.20. 大阪

船内敦司、北島尚昌、大倉千明、嶋村優志、植木康光、塚本信哉、神野志織、森本千絵、井上大生、丸毛聡、福井基成：オシメルチニブ投与7年目に心嚢水を伴う心機能障害を呈した1例. 第102回日本呼吸器学会近畿地方会/第7回日本ケア・リハビリテーション学会近畿支部学術集会. 2024.01.20. 大阪

## 【講演】

丸毛聡：Evidence と Experience から見えてきた Tezepelumab がもたらす新時代. 第63回日本呼吸器学会学術講演会コーヒブレイクセミナー11. 2023.4.28. 東京

北島尚昌：モニタリングを活かした HFNC と NPPV の導入. Coffee Break Seminar 第 63 回日本呼吸器学会学術講演会. 2022. 4. 28. 東京

丸毛聡：重症喘息に対する生物学的製剤 ～ Best Practice in 2023 ～. 第 63 回日本呼吸器学会学術講演会ランチョンセミナー11. 2023. 4. 29. 東京

丸毛聡：今と未来を見据えた重症喘息に対する生物学的製剤 Up Date in 2023. Type 2 Inflammation Forum. 2023. 5. 25. Web

丸毛聡：新型コロナウイルス感染症の後遺症～正しく知り、正しく向き合うために～. 大阪市北区医師会主催第 24 回みんなで学ぶ健康法. 2023. 6. 8. 大阪市

丸毛聡：吸入セルフチェック. COPD Short Lecture 2023. 2023. 6. 13. Web

丸毛聡：メポリズマブで目指すクリニカルレミッション. Mepolizumab Severe Asthma National Conference in Tokyo. 2023. 6. 17. 東京

北島尚昌：非侵襲的呼吸療法におけるモニタリングの重要性. 第 36 回非侵襲的呼吸療法研究会. 2023. 6. 17. 大阪

丸毛聡：重症喘息に対する生物学的製剤 Up Date～高齢者喘息の課題克服も含めて～. Tokyo BIO Therapy Conference. 2023. 6. 28. Web

北島尚昌：日常臨床における COPD との向き合い方. 明日から役立つ! どう診る? 呼吸器疾患～咳と痰の鑑別/診断/治療法～. 2023. 6. 29. 大阪

井上大生：ウィズコロナ時代の呼吸器感染症の外来診療について. 明日から役立つ! どう見る? 呼吸器疾患～咳と痰の鑑別/診断/治療法～ 2023. 6. 29. 大阪

北島尚昌：どのような患者に在宅 HFNC を導入すべきか～FLOCOP 試験を踏まえて～ 神奈川在宅 HFNC セミナー. 2023. 7. 5. 神奈川

福井基成：特別講演 東洋医学を活用した呼吸器内科診療. 令和 5 年度日本東洋医学会福島県部会総会. 2023. 7. 9. Web (福島)

北島尚昌：COPD に対する在宅ハイフローセラピーの意義 第 68 回日本呼吸器学会中国・四国地方会スイーツセミナー. 2023. 7. 15. 香川

北島尚昌：重症喘息診療と生物学的製剤の役割。兵庫県病院薬剤師西宮支部学術講演会。  
2023. 7. 20. Web（兵庫）

丸毛聡：トリプル製剤によるイニシャル治療の是非（pro & con）～pros の立場から～。第4回日本喘息学会総会学術講演会教育講演3。2023. 7. 22. 東京

北島尚昌：在宅ハイフローセラピー導入の意義～FLOCOP 試験を踏まえて～。静岡呼吸不全講演会。  
2023. 7. 22. 静岡

丸毛聡：Mepolizumab がもたらす clinical remission を再考する。第4回日本喘息学会総会学術大会モーニングセミナー2。2023. 7. 23. 東京

丸毛聡：今と未来を見据えた重症喘息に対する生物学的製剤 Up Date in 2023. Respiratory Physician Expert Seminar. 2023. 8. 24. 横浜

北島尚昌：日常臨床における EGPA 診療の心構え。呼吸器内科医のための EGPA セミナー。  
2023. 8. 25. 大阪

北島尚昌：NPPV とハイフローセラピーの管理とリハビリテーション。理学療法士講習会。  
2023. 9. 9. Web（大阪）

丸毛聡：Stop and Ponder！～COVID-19 診療のこれまでとこれからを考える～。Lung Cancer & COVID-19 Collaboration Conference. 2023. 9. 13. Web

丸毛聡：症例から考える COVID-19 後遺症の病態と診療の実際。第2回秋田県新型コロナウイルス感染症罹患後症状（後遺症）に係る医療機関向け研修会。2023. 10. 4. 秋田

北島尚昌：在宅ハイフローセラピー導入の意義。大阪府保険医協会 内科研究会。2023. 10. 5. 大阪

北島尚昌：ハイフローセラピーと NPPV の使い分け。第32回 在宅呼吸ケアを勉強する集い。  
2023. 10. 14. 岡山

丸毛聡：今と未来を見据えた喘息吸入療法 Up Date in 2023. TRELEGY Asthma 3rd years Anniversary National Conference. 2023. 10. 15. 東京

北島尚昌：コロナ禍でハイフローセラピーが我々にもたらしたもの～在宅ハイフローセラピーを含めて～。第35回地域包括呼吸ケアを考える会。2023. 10. 21. 大阪

丸毛聡：mepolizumabによる重症喘息治療戦略を再考する～toward 2024～. Mepolizumab Severe Asthma National Conference in Sapporo. 2023.11.4. 札幌市

丸毛聡：Experience と Evidence から考える Treatment Strategy. SANOFI Severe Asthma Forum. 2023.11.12. Web

井上大生：非 HIV 患者におけるニューモシスチス肺炎. 第 74 回大阪北肺疾患研究会. 2023.11.13. 大阪

北島尚昌：1<sup>st</sup> choice としての Tezepelumab～Con の立場から～. 重症喘息治療の New Generation 関西 Ver. 2023.11.15. 大阪

北島尚昌：ハイフローセラピーと NPPV の導入意義. 第 32 回神奈川県在宅呼吸管理研究会. 2023.12.9. 神奈川

丸毛聡：重症喘息における臨床的寛解の現在の課題と未来の展望. ADVENT Forum. 2023.12.12. Web

丸毛聡：Clinical Remission を目指す重症喘息のトータルコントロール. One Airway One Disease Seminar. 2023.12.14. 名古屋

北島尚昌：在宅ハイフローセラピーと在宅 NPPV の使いどころ. 第 13 回 C-young Respiratory Conference. 2023.12.14. Web(神奈川)

北島尚昌：モニタリングを活かした HFNC と NPPV の導入. 在宅ハイフローセラピーWebセミナー in 北海道. 2023.12.15. Web(北海道)

丸毛聡：Compass Needle for Clinical Remission toward 2024～re-think of mepolizumab～、Mepolizumab Severe Asthma National Conference in Osaka. 2023.12.17. 大阪

北島尚昌：在宅ハイフローセラピー導入の意義. 第 31 回大阪呼吸ケア研究会. 2024.3.9. 大阪

丸毛聡：COVID-19 後遺症の診療の実際～症例から考察するメカニズムと抗ウイルス薬の意義～、SHIONOGI Web Conference、2024.1.26. Web

丸毛聡：新時代の COVID-19 診療の実際～後遺症・インフルエンザとの同時流行を含めて～、高槻市医師会内科部会学術講演会、2024.1.27. 高槻市

北島尚昌：在宅ハイフローセラピー導入の意義。第33回三重県呼吸不全研究会。2024.1.27. 三重

北島尚昌：重症喘息診療と生物学的製剤の役割。TSLPカンファレンス。2024.2.9. 大阪

福井基成：その息切れ、本当に歳のせいですか？北野病院みんなの医療セミナー。2024.2.5. 大阪

丸毛聡：咳嗽診療 Up Date in 2024、リフヌア全国WEB講演会。2024.2.16. Web

丸毛聡：気道過敏性検査・気道可逆性検査、第3回気道アレルギー実習セミナー。2024.2.18. 大阪

丸毛聡：成人喘息の生物学的製剤の選択と展望（アドバンス）、第10回総合アレルギー講習会。2024.3.16. 横浜

丸毛聡：Next Goal of Inhalation Therapy for Asthma with Trelegy、第10回総合アレルギー講習会教育セミナー8。2024.3.17. 横浜

福井基成：アドバンス・ケア・プランニング（ACP）を再考する。第4回自分らしく生ききるケア・サポートを考える会。2024.3.23. 滋賀

丸毛聡：なぜ重症喘息で臨床的寛解を目指すべきなのか？Respiratory TV Symposium。2024.3.29. Web

### 【その他】

丸毛聡：コロナ治療薬「後遺症予防に意義」（共同通信）2023.6.23.

丸毛聡：新型コロナ“第9波”？じわり増加 治療薬が「後遺症」予防にも（フジテレビ）。2023.6.23.